

# 三備一宮 吉備津神社



御祭神 大吉備津彦大神他八柱配祀

## 御由緒

『古事記』『日本書紀』によれば、御祭神・大吉備津彦命は第七代孝靈天皇の皇子と生れ、第十代崇神天皇の御代、四道將軍の隨として吉備国に下られ、当時、当地方にて蛮行を重ね大和朝廷に対抗していた溫羅（百濟の王子とも伝えられる）一族を平定し、平和と秩序を築き、この地に茅葺宮（当社の摂社 本宮社の場所という）を営まれて吉備国の人々のために殖産を教え仁政を行い、二八才という長寿を以て当地に薨去せられ吉備の中山の山嶺に葬られました。

社伝によると第十六代仁德天皇が、吉備族より上がった采女黒媛を慕って吉備国に行幸された時に欲待にあつた吉備族より大吉備津彦命の業績を聴かれ、さらに大吉備津彦命の霊夢によりその徳を偲んで吉備国の祖神として崇め、五社の神殿と七十二の末社を創建せられ、奉斎なされたと伝えられます。『続日本後紀』の承和十四年（八四七）従四位下の神階授与を初見に、延喜式の定まるや名神大社に列し、やがて天慶三年（九四〇）には最高の「品」の神階を贈られ「品吉備津大明神」や「品吉備津宮」また三備（備前・備中・備後）の「宮」と称せられ、都を遠く離れた僻地に在りながら朝野の尊崇殊のほか篤く、平安末期の「梁塵秘抄」をみてもその御神威の程を窺うことが出来ます。

中世以降、江戸時代中期まで他社の例にもれず当社もまた神仏習合の永い歴史を過ごしてきましたが、明治の神仏分離を待たず、江戸時代中期には分離し、現在に至っております。産業の守護神として、長寿の守り神として、その御神徳を慕う人々は今も昔も変わることなく吉備国の祖神として尊崇のマコトを捧げ続けております。また、吉備国の人々に歴史とロマンを伝えてきた大吉備津彦命の溫羅退治の伝説神話が中世以降全国的に知れ渡っている「桃太郎」のルーツとしても親しまれています。

## 境内の文化財と撰末社

### 本宮社（内宮社と新宮社を合祀）

当社の長い廻廊の南端に鎮座し、吉備津彦命の父母神をお祀りしており安産・育児の神様として信仰されております。



▲本宮社

### 御竈殿（国指定重要文化財）

釜の鳴動で吉凶を占うという鳴釜神事で有名で、現在の建物は備中早島出身で石見銀山の開発経営に成功した安原備中守知種が願主となり慶長十七年（一六三二）に再建され、重要文化財に指定されております。

竈の下には大吉備津彦命に退治された鬼の首を埋めているという伝承があり、神秘的な鳴釜神事は古来より全国に知られています。



▲御竈殿

### えびす宮

廻廊の途中に位置して、商売繁盛・家業繁栄の神様として岡山県下に有名です。

特に正月九日・十日・十一日のえびす祭にはたくさんのお参りの人々が賑わいます。



▲えびす宮



▲宇賀神社

### 宇賀神社

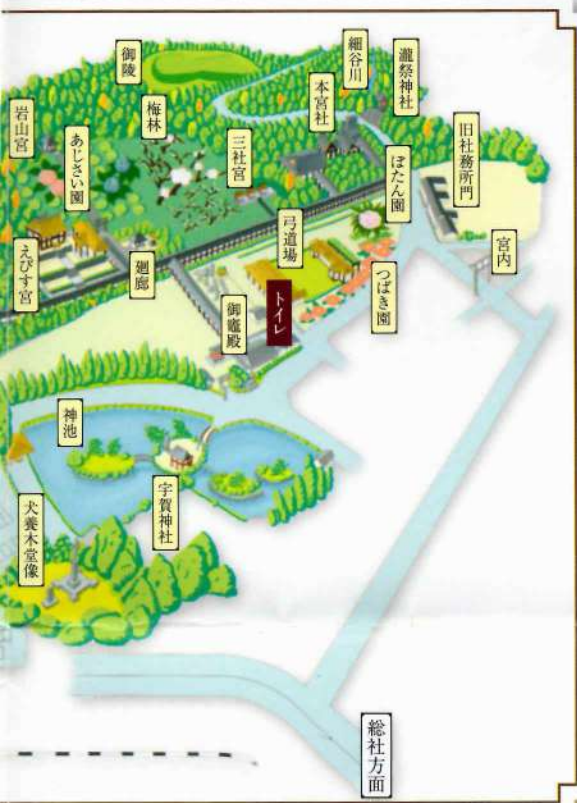
当社の神池の中央の島に鎮座し、御祭神は吉備国最古の稲荷神をお祀りしております。

神池は、日本庭園の様式に定着した池泉庭園という鑑賞を本旨としたものではなく、海洋表現と祖神を祀った神島であり、数少ない上古の遺構として貴重なものです。

### 本殿・拝殿（国宝）

社殿の造営は、社伝によれば、仁徳天皇が五社の社殿と七十二の末社を建立した事に始まるとされます。

度々焼失しましたが、明徳



## 御神徳について

### 延命長寿の守護神として

御祭神・大吉備津彦大神は非常な長寿を保たれておなくなりになり、社後の吉備中山に葬られておられますので、古来私たちの長寿をお守り下さる神様として深い信仰を集めておられます。

### 産業の守護神として

吉備国が古来文化の花を咲かせたのは、御祭神の開拓された尊い御神徳によるもので、土農工商すべての人々からその祖神として崇敬されてきました。学者の研究では鬼を征せられたことは、いち早く大陸の鉄文化を取り入れたことであり、砂鉄による製鉄技術を広められたことを意味します。岡山県が古くから砂鉄による製鉄の技に優れ、優秀な日本刀を産出しましたことも、御神助によるものとして近來は特に工業関係者、運輸交通業者はその守護神として崇敬しています。



▲安全週間に奉納された緑十字絵馬

## 安産育児の神として

昔話「桃太郎」は御祭神のご事績を童話化したものと言われている。御祭神の御妃百田弓矢姫は古来安産育児の霊験あらたかな神様で、桃太郎のような丈夫な子供に育つようお守り下さるとの深い信仰がございます。

また、吉備中山の「蔵」を食すると立派な子供を授かる。昭和七年、岡山県知事篠原英太郎氏の祈願により吉備中山の蔵を皇太后陛下に献上致しましたところ、翌年皇太子殿下がご誕生になられました。御神助のあらたかさ驚いた次第でございます。



▲宮内大臣返書（昭和7年5月）

▲献上蔵採取祭（昭和7年5月）

## 学問・芸術の神として

神仏習合の当時、大吉備津彦大神には虚空蔵菩薩をあてて信仰されておりました。この仏様は私たちに知恵を授けてくださる仏様で、御祭神は学問芸術の守護神との信仰があり、進学される方々のお参りが多いのもつとものと存じます。

## 境内を彩る草花

春には椿や桜、牡丹にツツジが境内を色鮮やかに飾り、初夏には二五〇〇株ほどのアジサイが多く見る人々を楽しませてくれます。

また、秋には御本殿横の斎庭にそびえ立つ樹齢六〇〇年以上の大イチョウが紅葉を迎え、その落ち葉が辺り一面に黄金色の絨毯を広げます。



▲アジサイ



▲本殿

元年（三九〇）後光厳天皇の勅命により、室町幕府三代將軍の足利義満が再興に着手し、応永三十二年（四二五）十二月二十九日に現在の社殿が落成しました。その建築様式を「比翼入母屋造」と言い、全国でも当社だけの様式です。この「吉備津造」とも称されており、戦後、昭和二十五年文化財保護法が施行されることとなり審査の結果、昭和二十七年三月二十九日には改めて国宝指定を受けました。

### 廻廊（県指定重要文化財）



▲樹齢600年の大イチョウ

天正七年（一五七九年）の再建で、全長三六〇mにも及び、自然の地形そのままに一直線に建てられております。

### 岩山宮

本殿の背後にある吉備の中山の山腹に位置し、吉備国の地主神をお祀りしております。



▲岩山宮



▲一童社と絵馬の祈願トンネル

### 一童社

学問・芸能の神様をお祀りしてあり、江戸時代の国学者も厚く信仰したと伝えられ、近年では進学を目指す人々のお参りが絶えません。

### 吉備津神社境内図



### 祭典及び神事

#### 春秋の大祭

当社の春・秋の大祭では、神宝ならびに神膳七十五台の献饗を奉進して、長廊下を行進供奉する七十五膳据神事があり、その社観は稀有の神事として遠近に著名です。春季大祭は五穀豊稔を祈念し、秋季大祭は収穫に感謝する祭典です。

#### 鳴釜神事



▲春季大祭

御祭神により退治された鬼の首が埋められているという伝承がある御竈殿にて執り行われる神事です。御釜の鳴る音によつて吉凶禍福を占う神事でありその神秘的な靈験は少なくとも室町時代には天下に有名であり、戦国時代、備中に滞留していた黒田官兵衛が「釜が動いた」ことを感謝した書状もあり戦国武将もこの神事に祈願したことが知れます。江戸期には、上田秋成の怪異説話集「雨月物語」にも「吉備津の釜」として取り上げ

### 御祈禱案内



▲鳴釜神事

御祈禱殿にて真心と願事を合わせて祈りました御神札をお下り致します。御神札は袋から取り出し神棚にて大切に祀り下さい。吉備津の大神様の恩恵をお受けになられて日々の生活の安心立命の糧として下さい。

ご平安を祈り居ります。

- 家内安全
- 交通安全（自動車・二輪車清祓）
- 厄災消除（年賀・還暦など年祝い）
- 合格祈願（社運隆昌・安全祈願）
- 安産成就（初宮詣・七五三詣（十一月）など）
- その他、様々な御祈願に応じて肅行致します。



▲牡丹



▲桜



## 主な祭暦

|               |        |
|---------------|--------|
| 歳旦祭           | 一月一日   |
| 建国記念の日祭       | 二月十日   |
| 春季大祭(七十五膳据神事) | 五月第二日曜 |
| 大養木堂慰霊祭       | 五月十五日  |
| 大祓式           | 六月三十日  |
| 夏祭り           | 七月二十日  |
| 秋季大祭(七十五膳据神事) | 十月第二日曜 |
| 七五三詣          | 十一月中   |
| 大祓式・除夜祭       | 十二月三十日 |
| 月旦祭           | 毎月一日   |
| 月次祭           | 毎月十三日  |



## 正月の行事

### ◆ 矢立の神事

正月三日午前九時半頃より当社正面入口の矢置岩という巨石の前にて、射手が空中高々と矢を放ち四方より来る災禍を祓いその年の安寧を祈ります。

### ◆ 吉備津三味線餅つき

餅つき保存会の方々が三味線の小気味良いリズムに合わせて賑やかに餅をつきます。ついた餅は初詣の参拝者に頒布いたします。

### ◆ えびす祭

正月の九日・十日・十二日に、恵比須大黒二柱の神さまをお祀りするえびす宮にて熊手・箕・宝船などの縁起物を授与します。また、商売繁昌の祈祷も随時、斎行致します。



## 交通アクセス

### 鉄道

最寄駅:JR桃太郎線(吉備線) 吉備津駅(徒歩約10分)

### バス

備北バス(東総社経由「地頭」行き)で、「吉備津神社参道口」バス停下車(下車後徒歩約5分)

### 車

岡山駅より国道180号線で約30分

岡山総社ICより国道180号線で約15分

### 自転車

備前一宮駅からレンタサイクルで、約15分

岡山市街地から、吉備路自転車道を1時間程度

## 吉備津神社々務所

住所 岡山市北区吉備津931

TEL 086-287-4111

FAX 086-287-7644

URL <http://kibitujinja.com/>

